

令和元年度 地域懇談会 報告書

地域名	柏市酒井根地域ふるさと協議会
日 時	令和元年8月23日（金）午後2時00分～3時10分
場 所	酒井根近隣センター 会議室A
参加者	ふるさと協議会役員等 : 9名 地域づくり推進部長 : 1名 酒井根近隣センター所長 : 1名 社会福祉協議会職員 : 1名 地域支援課職員 : 6名 地域づくりコーディネーター : 1名 合計 : 19名
次 第	別紙のとおり
意見 交換	<p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年には民生委員・主任児童委員の一斉改選なので人材確保が大変。</li> </ul> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども未来部は現在5名で活動している。40～50代の現役世代の女性。</li> <li>・子どもが高校生・大学生になり、フルタイムの仕事始める年代で忙しく時間がない中での活動。主任児童委員もしているが、子育てが終わった時間が全て主任児童委員活動の時間になった。親の介護の問題も入ってくる。少しずつ時間を出し合っている。</li> <li>・地域活動は現役世代より退職の方が中心になった方がよいかなと思う。</li> <li>・保護者の方々にもアプローチしているが、参加は出来るが主催側になるのは難しいと言われてしまう。PTAやおやじの会も同様。</li> </ul> <p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支えあい活動については、「さかイイネの会」がやってくれている。</li> <li>・ふるさと協議会の外付けになってから、活動の場が広がってきた。ゴミ出しから草刈り、建具の修理など、得意分野を生かす活動を行っている。ふるさと協議会福祉部の古池さんが中心となっており、認知されてきている。</li> </ul> <p>柏市職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと協議会の外付け」とはどういうことか。</li> </ul>

#### ふるさと協議会役員

- ・元々ふるさと協議会の高齢者福祉部としてやっていたが、制約が多いので思い切ってふるさと協議会から切り離し、外に出して独立団体とした。そうすることで活動の領域が広がった。
- ・ふるさと協議会はサポートしている。
- ・支えあいには二面性があり、広域の「さかイイネの会」ひとつの活動で全体をカバーするのは無理。「さかイイネの会」が活発になるのに合わせて、町会・自治会の支えあい活動も広がる必要がある。
- ・「さかイイネの会」はボランティアの人数も増えた。

#### ふるさと協議会役員

- ・支えあい活動だけなら手伝いは出来るが、そこにあれもこれもと活動が付帯してくるから本来の活動がやりにくくなってしまう。
- ・八尾防災部長に防災部の活動をお話していただきたい。

#### ふるさと協議会役員

- ・防災部は平成21年（2009年）に発足。部員は8名。
- ・主な活動は以下の3つ。
  - ①救急法講習会
    - ・ふるさと協議会防災部として年1回実施しており、今年は32名が参加した。
    - ・AEDの使い方講習や三角巾の使い方などの講習も実施したことがあるが、そうすると時間が足りなくなってしまう。東部消防署光ヶ丘分署が快く依頼を受けてくれるので、ふるさと協議会として続けてよいと思う。
    - ・AEDは柏市内でも増えており、操作は簡単だが利用が少ない。人工呼吸などはハードルが高いが、AEDなら素早く利用出来るという回覧板を回した。
  - ②防災施設体験学習
    - ・自主防災会とふるさと協議会防災部の連絡がなかなかうまくいかないが、地域の自治会20数名で2月か3月に体験学習をしている。
    - ・役立っていると思っており、今年帰りに立ち寄った守谷サービスエリアは災害の時に緊急避難場所になるというようなことを知らなかったのがよかった。
    - ・市原の県消防学校、八幡消防署の消防ロボットシステム部など

を見学できるか検討している。

- ・ふるさと協議会と各自治会の自主防災会との連携を深めるのはよいと思う。

### ③自宅でできる防災対策の学習会

- ・昨年度からは各自治会の防災担当との交流会を持ちたいと動き始めた。今年度は9月21日に実施予定。
- ・ビューパレー南柏自治会や青葉台ベルドゥムールマンション自治会などのマンションの自治会も自主防災会が出来たので、連絡を密にしていきたい。
- ・ふるさと協議会の防災会が出来て10年経つが、まとまったの訓練はあまり出来ていない。3・11の後、各町会・自治会の被害状況届の内容をまとめた。
- ・会長が毎年代わる町会・自治会において、防災活動にも工夫が必要だと思う。現在の部員は8名。

### 柏市職員

- ・自主防災会の意見交換会や交流会は、知る限り他の地域ではやっていないので、柏市内で初めての取り組みかもしれない。

### ふるさと協議会役員

- ・各町会の防災活動を調べてみたが、「なり手が無い」「防災訓練に人が集まらない」「うちではこういう取り組みをしている」などのことを共有できる交流も含めてやっていきたい。
- ・西山町会の古池さんがいるので取り組めており、古池さんをはじめとする防災研究会の方の協力を得ている。
- ・防災研究会に話してほしいという意見もあるので、今年計画している。
- ・マンションにはなかなか自主防災会が出来なかったが、一昨年には青葉台ベルドゥムールマンション自治会、今年にはビューパレー南柏自治会ができて活動を始めるので、マンションの防災についても意見交換したいと考えている。

### 柏市職員

- ・素晴らしい取り組みだと思う。
- ・当課のプラス10補助金を募集すると、最近では自主防災会の活動内容で応募されるケースがある。

- ・町会役員は輪番で毎年代わるところもあるが、自主防災会の活動だけは複数年での取り組みとして活動を積み上げられる。そこから他の町会活動にも広げられるかと思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・西山町会も役員人事は一年交代だが、自主防災会は複数年で交代している。
- ・防災関係の課題を解決するためには、役員も複数年務めることが必要だと思う。

#### ふるさと協議会役員

- ・町会に属している人が参加する行事で料理教室や手芸教室などは、参加者の高齢化により人数も減少しており、毎回の参加する方も同じことが多い。
- ・回覧板や掲示板で呼びかけても参加者が少ないと、前回の参加者に出席をお願いすることもある。そうすると参加者も固定化されてしまい、毎年同じ行事を実施しているのが現状。
- ・委員を長く務める人が多いこともあり、新しい意見が出にくく、委員は町会からの選出されるが、やりたいという人はいない。頼まれば引き受け、辞める時は個々で代わりを探しているのが現状。
- ・若い人や大学生の若めの母親などに頼んでも、ふるさと協議会の活動が知られていないので、お手伝いは出来ても役員を引き受けるまではいかない。
- ・行事の固定化もあり、広げるのは難しい。

#### 柏市職員

- ・部会長のみなさんは町会長ではないのか。
- ・他の地域と比較して似通っているのは田中ふるさと協議会だと思う。田中ふるさと協議会は運営委員を町会の世帯数に応じて選出し、田中全体を50人くらいで動かしている。

#### ふるさと協議会役員

- ・酒井根地域も前は民生委員や健康づくり推進委員はふるさと協議会から60人ほど選出していたが、見直しをかけて今は45～46人を各町会から推薦してもらっている。
- ・町会長などのリーダーではなく、地域に根ざして活動している人

から選出している。

ふるさと協議会役員

- ・ふるさと協議会内では町会長は役員ではなく、理事になる。

ふるさと協議会役員

- ・理事が10人おり、6つの町会・自治会長と、下田の杜のNPOや民児協の代表者4人で構成している。
- ・役員会と理事会は別に行っている。

ふるさと協議会役員

- ・民生委員や健康づくり推進委員は世帯数に応じて各町会から選出している。だいたい、公平に選出されていると思う。

柏市職員

- ・ふるさと協議会の役員選出の体制には大きく2種類あり、酒井根のようにご自分で後任を探さなくてはいけないという所と、ふるさと協議会役員そのものは町会からの選出だから困らないという所に分かれているように思う。
- ・田中は40年ほど経っている一番古いふるさと協議会。田中の場合は、女性たちが活動を通じてお仲間として集まってきて楽しく過ごすうちに、それがふるさと協議会の組織の母体となっていたような経緯がある。
- ・他には町会の役員が自動的にふるさと協議会の役員になる地域が半分くらい。
- ・保守的な地域であれば、「〇〇町会長は△△部長職になる」と決まっている地域もある。
- ・適材適所にならない場合もあり、それぞれの方法でよし悪しがある。
- ・町会長になると、ふるさと協議会の役職が漏れなくついてくることになる。

ふるさと協議会役員

- ・そのような紐がついてくると、やり手がいなくなる。
- ・昔は酒井根町会も「〇〇部長は△△町会員が務める」と決まっていたが、緩くなってきた。

ふるさと協議会役員

- ・歴代の部会長には「皆ふるさと協議会に入っている」と言われたこともある。

ふるさと協議会役員

- ・酒井根地域は小規模で6町会しかない。
- ・光ヶ丘地域は大きく、南部地域も大きい町会がまとまってお祭りをやっており、更にパワーのあるところは町会単位でもお祭りをやっている。良し悪しではなく、どうしたら動きやすく運営ができるか考える必要がある。
- ・「さかイイネの会」の運営方法も考える必要がある。
- ・下田の杜も協議会にしたなら、口だけ出す人が増えた。NPOにしたならお金を出すことも含めてやりたい人がやるから、パワフルになった。
- ・ふるさと協議会も協議会なので、構成団体に対する責任を持つことになっている。住民に対する責任ではなくて、構成団体への責任が大切。その上でそれぞれの団体が住民へ働きかけるとなると、それはそれでよい。
- ・団体の代表が長をするのが本来のあり方だろう。

ふるさと協議会役員

- ・環境部では女性が5名在籍しており、それぞれ仕事を持っているため全員で顔を合わせることは殆ど無い。
- ・5月にごみゼロ運動、10月に美化運動があるが、参加できないを非常に気にされ、全てに参加できないから役員は出来ないという人が多い。
- ・役員を3名から5名にした時、家庭を最優先にしてくださいとお願いした。出られるときだけ出ると、緩くすることで長続きすると思う。部員がいなくて何もできなくなるので、活動内容はごみゼロ運動と美化運動のみで続けている。
- ・期限切れの近い備蓄飲料水をごみゼロ運動の時に配ったことがあり、地域の方の印象に残っている。次の切り替えの時にもぜひ配ってほしい。

柏市職員

- ・2年前に防災安全課から提供されたもので、しばらく切り替えは

ないと思う。

- ・担い手不足は切実だと感じている。イベントは準備が大変で、その準備のために、役員の方たちが労力と時間を割いてやり繰りし、いろいろな事業をしている。ここに住んでいる人は幸せだと思う。ふるさと協議会のPRはもっと必要だと思う。
- ・文化祭で使用する大型のパネルを業者に用意してもらったことは負担軽減のひとつになったと思う。
- ・ふるさと協議会の活動のために出来ることは協力していきたい。

#### ふるさと協議会役員

- ・事業委託されているものを活字にすると50～60もある。楽しみながら何気にやっているものがそんな数になってしまっている。
- ・「活動する仲間を増やす」ということだが、酒井根町会は役員さんがみんな長く務めており、辞めない。辞めさせない？（笑）
- ・酒井根小学校のおやじの会も夏祭りにボランティアで参加してくれていた。その後、町会の係に何人か入ってくれた。
- ・ゴルフ愛好会の人でも何人かが役員になってくれた。今後も地道に声をかけていく。
- ・町会でも危機感を持っている人は少ないと思う。本当に後任を探しているのか。

#### 柏市職員

- ・酒井根町会の活動が楽しいことがよく伝わってくる。

#### ふるさと協議会役員

- ・退職してから地域に入ったばかりで、自分自身が町会の事をまだよくわかっていない。
- ・人材に対しては問題意識は持っている。
- ・町会役員が1年で全部入れ替わるので、少し残ることができるように組織の改編準備をしている。
- ・担い手不足についてはどこの組織も一緒なんだと実感している。
- ・自分自身がふるさと協議会のことをまだわかっていないが、現役の人や若い人まで浸透させるのは難しいと思う。ふるさと協議会を理解いただけるように市の協力を得ながら活動していきたい。3世代運動会などでも活動できればと思っている。

	<p>ふるさと協議会役員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは感謝を申し上げたい。</li> <li>・言いたいことは以下の2点。       <ul style="list-style-type: none"> <li>①これまで防災は西山町会主導でやってきたが、プラス10のおかげで独立した組織ができ、9月末には避難所開設訓練ができるところまで来た。今後は酒井根小学校、酒井根中学校の防災面も整備したい。酒井根小学校は年度内にスタートしたい。</li> <li>②担い手について、柏市ふるさと協議会連合会にも事務局を置いたように、ふるさと協議会にも事務局体制が必要と思う。町会事務局、ふるさと協議会事務局を立ち上げるには場所や人の問題があり、近隣センターとの協力体制が必要になる。非常勤でも事務局員を置きたい。ふるさと協議会の費用からでいいと思う。</li> </ul> </li> <li>・ふるさと協議会でも町会でも組織を運営すること自体にエネルギーをとられてしまい、本来の活動ができていない。例えば、行政の文書の処理が大変であることや、会議録を正式にきちんと作るのが難しいこと、業務の引継ぎが難しいこと、それらをやろうという人がいないことがあげられる。</li> <li>・マニュアルがあって引き継ぎが出来るという環境の整備が必要であり、そのためにはやはり事務局が必要。どうすれば実現可能か、よく相談していきたい。</li> </ul>
<p>いただ いたご 意見の まとめ</p>	<p>(地域の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酒井根ふるさと協議会の各部の活動を詳しく教えていただいた。</li> <li>・「さかイイネの会」がふるさと協議会の組織を出て、ふるさと協議会と協力しながら活動することで動きやすくなったとのお話を伺った。</li> <li>・担い手不足に関しては、若い方や現役の方は忙しく難しいとのお話を伺った。</li> </ul> <p>(柏市職員の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと協議会ごとに組織の役員の決め方が違うのがよくわかった。</li> <li>・各町会の自主防災会の横のつながりを作っていることは、勉強になった。他の地域にもご紹介したいので、会のその後の動きも知りたい。</li> <li>・退職した方も忙しく、70歳まで働いて退職した後は自分のために使いたいというお話も理解できる。</li> </ul>

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・今後の地域活動を考える上で皆が「忙しい」ということは、ひとつのポイントになると感じた。</li><li>・お水配布の件に関しては、所長よろしく申し上げます。(笑)</li></ul> |
|--|--|